

荒川区教育委員会
教育長 川口 祐弘 様

荒川区立 原中 学校
校 長 刑部 之康

公印

学校関係者評価報告書

平成 23 年度の教育活動の評価結果及び改善方針について、下記のとおり報告します。

記

評価項目 1 「学校全体の様子」

1. 教育目標、方針に関しては保護者や地域等にはよく理解されている（保護者 AB76%評価委員会 AB100%）が昨年度よりはやや上昇したが生徒への浸透度がやや低い（生徒 CD37%）。引き続き生徒に浸透を図る努力をしなければいけない。
2. 生徒の満足度が高い（AB82%）。継続できるよう学校は努力していく。
3. 前年度は大人の達成度が低かったが、今年度の重点項目として指導した結果、生徒の達成度（AB81%）と大人の達成度（保護者 AB84%、教職員 AB80%）が同じくらいになった。引き続き基本的な生活習慣の指導を行っていく。
4. 大人の満足度は高い（保護者 AB79%教職員 AB90%）が、生徒の満足度はやや低い（AB53%）。教員は生徒の数値を考え、個性を伸ばせる指導をしていかなければいけない。
5. 昨年同様生徒用と大人用のアンケートの質問の内容が一致していない感じがする。生徒の達成度（AB64%）を上げるよう改善していく。

評価項目 2 「学力向上の取組」

6. 生徒の意識（AB64%）と教員の意識（AB90%）のずれが大きい。引き続き生徒の満足度が上がるように教員は授業の工夫や改善を図らなければいけない。
7. 意識のずれはほぼない（生徒 AB61%保護者 AB68%）。個に応じた指導の工夫を図り生徒の満足度を上げていく。
8. 全体的に評価がやや低い（生徒 AB42%保護者 AB66%）。次年度の本校の最重要課題としてとらえ家庭学習の習慣や学習意欲の向上に家庭と連携を図り、具体的な策を弄し充実させていく。
9. 生徒の評価がやや低い（CD43%） I C T 黒板を積極的に活用するなど、情報教育のさらなる工夫・改善を図り、学力の向上につなげる。
10. 生徒の評価が低い（CD64%）放課後や昼休みだけの図書館の活用だけでなく、授業でも図書館を使うよう各教科、学年で取り組んでいく。生徒への質問が偏っているという意見が多い。

評価項目 3 「社会性・人間性の育成」

11. 今年度は人権作文代表校に選ばれたため人権教育に関する取組が多く教師の達成度は上がった。(教職員 AB100%)しかし、生徒・保護者の達成度は昨年と同様である。(生徒 AB70%、保護者 AB69%)。生徒・保護者の達成度が高まるように今後は努力していく。
12. 生徒、保護者の評価はおおむね良好である(生徒 AB65%、保護者 AB73%)が、授業改善を図るとともに教育活動全般で道徳心を養えるよう工夫していく。
13. 学校が思っているほど生徒の満足度は高くない(生徒 AB49%教職員 AB90%)。安心して通える学校作りを目指し、教育相談体制の充実を図るとともにクラスや学年への所属意識を高めるような学級経営・学年経営を実践していく。
14. 全体の評価が高く、(生徒 AB84%、保護者 AB90%、教職員 AB100%)本校の特色ある取り組みの一つである。勤労留学、自然体験教室、卒業スキー遠足、救急救命講習など体験活動を数多く経験させ、それぞれで得た能力を定着させ「生きる力」の育成につなげていく。
15. 生徒も教職員も評価が高まってきた。(生徒 AB62%、教職員 AB60%)。次年度は生徒会活動だけでなく様々な取組を各活動で実践し、全体の意識を高めていく。

評価項目 4 「保護者・地域との連携」

16. 満足度は高かった。(生徒 AB63%、保護者 AB82%、評価委員 AB100%)引き続き「わかりやすさ」を常に意識し、各通信やホームページを地域等に発信していく。
17. 生徒の評価がやや低く(生徒 AB45%)、大人は評価が高い(保護者 AB78%教職員 100%)。次年度は生徒の評価を上げるような教育相談体制の確立と具体的な活動を実践する。
18. 評価は上がってきた(生徒 AB63%保護者 AB75%)あがってきた。保護者や地域と連携を図り、さらにより開かれた学校作りを目指す。
19. 地域と学校とのつながりが一過性にならないように注意しながら生徒が参加できる行事を精選していく。
20. 引き続き保護者、地域からの意見は必ず全教職員に周知し、学校全体で意見を反映できるようにする。

評価項目 5 「特色ある教育活動」

21. 大人の評価は高い(保護者 AB93%、評価者 AB100%、教職員 AB100%)が、用務主事の活動によるところが大きいので、生徒の評価は依然としてやや低い(AB69%)。今後も生徒の清掃意欲を高め、学校全体で美化活動に取り組んでいく。
22. 前年同様保護者の評価が高く安心した(AB75%)。「よくわからない」と答えた生徒が1,2年生に多かった。(1年17%、2年25%、3年0%)1,2年次よりキャリア教育を意識させ、3年間を通した進路学習を実践していく。
23. 地域清掃ボランティアなど生徒会を中心に数多くの活動に取り組んでいる。昨年同様評価も高く(生徒 AB83%、保護者 AB87%)、原中学校の特色ある取組みとして今後も継続、さらに発展させていく。
24. 今年度の最重要課題として取り組み、評価はやや上がった。(生徒 AB58%、保護者 AB70%)日常の活動や実績などをさらに充実させ、部活動の質を上げていく。
25. 評価が高く(生徒 AB77%、保護者 86%)、生徒、保護者の関心も高い。献立だけでなく食育の幅を広げていく。

評価結果を受けての学校の改善方針

昨年度から最も大きく変わり成果を上げたのは3の基本的な生活習慣である。昨年度までは生徒の達成度は高かったが、保護者、教職員、評議員の評価は低かった。今年度は生活指導部を中心にあいさつや授業でのマナー、また、頭髮、服装等の細かいルールを守ることを生徒たちに全教員で厳しく指導してきた。生徒たちの規範意識は高まり、生徒だけでなく学校関係者全員の評価を上げることができた。小林福太郎先生からもこの項目のポイントの上昇が原中学校の飛躍の証であるという言葉をいただいた。次年度もこの項目は重点課題として維持していかなければいけないとご指導を受けた。次年度も引き続き指導を継続していくとともに、「注意をされるから直す、きまりを守る」といった他律的な生徒指導から「正しいことはどういうことか、どうするべきか」ということを自分で判断できる自立的な生徒指導に転換すべく生徒が自ら規範意識を高めていける指導を展開していく。

また、体験活動の項目とボランティア活動の項目について小林先生から「原中学校の最も良い特色である。」という評価をいただいた。今後は、体験活動については単に体験させ、思い出として残すだけでなく、体験の意義やそれによって身に付いた能力を生徒たちに自覚させ、定着を図っていく。ボランティア活動についてはその活動によって養われるべき「責任感」「忍耐力」「協調性」等の特性の育成と「自分がどのような考え方や行動をしているのか。」という自己理解につなげていくようにしていかなければいけない。

最後に原中学校にとって次年度もっとも大きな課題は8の学習習慣である。小林福太郎先生評議員全員から指摘を受けた。校長の学校経営方針にもある「すべての生徒の学びを保証する」ことを目標に、それぞれの教科の授業改善を図り、今年度も実施してきた「原中検定」や「朝学習」「補充学習」をさらに工夫、充実させ学習意欲の向上と学習習慣の定着を図り学力向上を目指す。